

# 令和元年度 第2回苫小牧市航空機騒音対策協議会

日 時 令和元年11月25日(月)  
午後6時30分  
場 所 リサイクルプラザ苫小牧  
2階 会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 会長挨拶

### 3 部長挨拶

### 4 議 題

#### (1) 報告事項

##### ア 米軍再編に伴う米軍機訓練移転について

- ① 「米軍再編に伴う米軍機訓練移転」に関する主な経過について 【資料1-1】
- ② 米軍再編に係る各基地の訓練移転経過について 【資料1-2】
- ③ 沖縄県の負担軽減調査結果について 【資料1-3】

##### イ 日豪共同訓練について 【資料 2】

##### ウ 航空機事故関連について

- ① 令和元年度(上期)航空機の部品落下事案について 【資料 3】

##### エ 令和元年度要望活動結果について 【資料 4】

##### オ 北海道における空港経営改革について 【資料 5】

##### カ 新千歳空港における最近の動向について 【資料 6】

#### (2) 協議事項

##### ア 令和元・2年度再編関連訓練移転等交付金事業について 【資料 7】

### 5 その他



**「米軍再編に伴う米軍機訓練移転」に関する主な経過**

※令和元年度第1回苫小牧市航空機騒音対策協議会(令和元年6月4日)以降の経過

令和元年9月20日	米軍再編に係る三沢飛行場から小松基地への訓練移転に関する訓練計画概要について
	米軍再編に係る岩国飛行場から三沢基地への訓練移転に関する訓練計画概要について



## ◆ 米軍再編に係る各基地の訓練移転経過 ◆

年度	基地名	訓練期間	参加規模(米軍)	訓練タイプ	参加部隊	視察有無	備考
18	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) : 1回程度			H19.1.11通知、3月を目途にどしどし回数の明記はないが1回と思われる		
	築 城	H19.3.5(月)～3.8(木)	F15×4機 54人	I	嘉手納	道の連絡会議	
	計	築 城:1回		I:1回	嘉手納:1回	1基地派遣	
19	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) : 1～2回程度 タイプⅡ(1回につき6～12機の米軍機が8日～14日間参加) : 3回程度			H19.1.31通知		
	小 松	H19.5.16(水)～5.23(水)	F15×5機 約80人	I	嘉手納	2名派遣	19日土曜・20日日曜の訓練は行われていない。
	築 城	H19.6.18(月)～6.22(金)	FA18×5機 39人	I	岩国	無	
	三 沢	H19.7.16(月)～7.21(土)	F15×5機 約80人 F16×4機	I	嘉手納 三沢	2名派遣	16日祝日・21日土曜の訓練は行われていない
	新田原	H19.9.3(月)～9.5(水)	F15×2機 14人	I	嘉手納	2名派遣	
	百 里	H19.10.15(月)～10.19(金)	F16×5機 77人	I	三沢	2名派遣	
	小 松	H19.11.5(月)～11.16(金)	F15×12機 約180人	II	嘉手納	無	F15事故調査のため中止
	百 里	H20.1.15(火)～1.18(金)	F16×5機 85人	I	三沢	無	
	新田原	H20.2.12(火)～2.15(金)	FA18×2機 4人	I	岩国	無	
	千 歳	H20.2.25(月)～2.28(木)	FA18×4機 13人	I	岩国	2名派遣	悪天候のため午前1回2日の訓練
計	千 歳:1回 小 松:1回 三 沢:1回 築 城:1回 百 里:2回 新田原:2回 計:8回		I:8回 II:0回	三 沢:3回 岩 国:3回 嘉手納:3回	5基地派遣		
20	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) : 併せて10回程度 タイプⅡ(1回につき6～12機の米軍機が8日～14日間参加) : 併せて10回程度			H20.6.20通知		
	三 沢	H20.7.23(水)～7.30(水)	F15×6機 約80人	II	嘉手納	2名派遣	26日土曜・27日日曜の訓練は行われていない。
	新田原	H20.9.2(火)～9.4(木)	F15×2機 18人	I	嘉手納	無	
	小 松	H20.12.1(月)～12.5(金)	F16×6機 約80人	II	三沢	無	
	千 歳	H20.12.8(月)～12.12(金)	F15×5機 72人	I	嘉手納	2名派遣	
	新田原	H21.2.23(月)～2.27(金)	F15×5機 81人	I	嘉手納	無	
計	千 歳:1回 小 松:1回 三 沢:1回 築 城:0回 百 里:0回 新田原:2回 計:5回		I:3回 II:2回	三 沢:1回 岩 国:0回 嘉手納:4回	2基地派遣		
21	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) : 1～2回程度 タイプⅡ(1回につき6～12機の米軍機が8日～14日間参加) : 3回程度			H21.1.28通知		
	千 歳	H21.4.20(月)～4.23(木)	FA18×5機 32人	I	岩国	2名派遣	
	三 沢	H21.7.25(土)～8.1(土)	FA18×7機 約70人	II	岩国	無	7/25・26・8/1の土日の訓練は行われていない。
	百 里	H21.10.2(金)～10.9(金)	F15×5機 83人	I	嘉手納	無	機材の点検及び天候不良のため、訓練は全て中止。テスト飛行1回のみ。
	小 松	H21.11.14(土)～11.20(金)	FA18×7機 F16×5機 約180人	II	①岩国 ②三沢	無	11/14・15の土日の訓練は行われていない。
	百 里	H22.1.29(金)～2.5(金)	F15×6機 87人	II	嘉手納	無	1/30・31の土日の訓練は行われていない。
	三 沢	H22.2.27(土)～3.12(金)	FA18×8機 約150人 F16×4機	II	岩国	無	2/27・28、3/6・7の土日の訓練は行われていない。 千歳基地F15が空域で訓練に参加
	築 城	H22.3.5(金)～3.12(金)	F16×5機 約90人	I	三沢	無	3/6・7の土日の訓練は行われていない。
計	千 歳:1回 小 松:1回 三 沢:2回 築 城:1回 百 里:1回 新田原:0回 計:6回		I:2回 II:4回	三 沢:2回 岩 国:4回 嘉手納:1回	1基地派遣		
22	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) : 併せて15回程度 タイプⅡ(1回につき6～12機の米軍機が8日～14日間参加) : 併せて15回程度			H22.1.29通知		
	小 松	H22.6.5(土)～6.18(金)	FA18×10機 約180人	II	岩国	無	6/12・13の土日の訓練は行われていない。
	三 沢	H22.10.15(金)～10.23(土)	FA18×9機 約150人 (計画:10機 約160人)	II	岩国	無	千歳基地F15が空域で訓練に参加 土日の訓練は行われていない。
	千 歳	H22.11.8(月)～11.19(金)	F15×12機 約170人 (計画:12機 約190人)	II	嘉手納	2名派遣	三沢基地F2が空域で訓練に参加。 土日の訓練は行われていない。
	小 松	H22.12.1(水)～12.11(土)	F16×12機 約200人	II	三沢	無	日米共同統合演習の一部として実施されたため土日の訓練有り。
計	千 歳:1回 小 松:2回 三 沢:1回 築 城:0回 百 里:0回 新田原:0回 計:4回		I:0回 II:4回	三 沢:1回 岩 国:2回 嘉手納:1回	1基地派遣		

年度	基地名	訓練期間	参加規模(米軍)	訓練タイプ	参加部隊	視察有無	備考	
23	計 画	下半期に5回程度を計画予定 そのうち、グアムへの訓練移転を2～3回程度を目標に計画予定					H23.10.4通知	
	築 城	H23.7.8(金)～7.15(金)	F16×6機 約90人	II	三 沢	無	7/9・10の土日の訓練は行われていない。	
	グアム	H23.10.10(月)～10.31(月) (実績:H23.10.10～10.28)	FA18×20機 約400人	グアム	岩 国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった2週間以上の訓練をグアムへ移転。	
	グアム	H23.12.1(木)～12.18(日) (実績:H23.12.5～12.19)	FA18×20機 約650人	グアム	岩 国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアムへ移転。	
	グアム	H24.2.6(月)～2.24(金)	F15×18機 約500人	グアム	嘉手納	無		
	百 里	H24.2.13(月)～2.24(金)	FA18×6機 AV-8B×3機 約90人	II	岩 国	無		
計	千 歳:0回 小 松:0回 三 沢:0回 築 城:1回 百 里:1回 新田原:0回 グアム:3回 計:5回		I :0回 II:2回 グアム:3回	三 沢:1回 岩 国:3回 嘉手納:1回	派遣無し			
24	計 画	10回程度を計画予定 そのうち、グアムへの訓練移転を5回程度を目標に計画予定					H24.3.22通知	
	グアム	H24.5.14(月)～6.8(金)	FA18×20機 約600人	グアム	岩 国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアムへ移転。	
	千 歳	H24.9.5(水)～9.7(金)	FA18×4機 約20人	I	岩 国	2名派遣		
	グアム	H24.9.27(木)～10.25(木)	FA18×20機 約600人	グアム	岩 国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアムへ移転。	
	グアム	H24.11.29(木)～12.18(火)	FA18×20機 MV-22×4機 約880人	グアム	岩 国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアムへ移転。	
	新田原	H25.1.14(月)～1.18(金)	FA18×6機 約90人	II	岩 国	無		
	グアム	H25.1.21(月)～1.30(水)	F16×14機 約190人	グアム	三 沢	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアムへ移転。	
	グアム	H25.1.29(火)～2.15(金)	F15×12機 約260人	グアム	嘉手納	無		
計	千 歳:1回 小 松:0回 三 沢:0回 築 城:0回 百 里:0回 新田原:1回 グアム:5回 計:7回		I :1回 II:1回 グアム:5回	三 沢:1回 岩 国:5回 嘉手納:1回	1基地派遣			
25	計 画	グアム等への訓練移転を含み10回程度の実施を目標に計画予定					H25.3.27通知	
	新田原	H25.6.17(月)～6.21(金)	FA18×8機 約120人	II	岩 国	無	台風接近のため17～19日で終了	
	千 歳	H25.7.8(月)～7.12(金)	F16×6機 約80人	II	三 沢	1名派遣		
	グアム	H25.7.10(水)～8.2(金)	FA18×20機 約550人	グアム	岩 国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H25.8.12(月)～8.23(金)	F15×18機 約340人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場の訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H25.10.28(月)～11.8(金)	F16×14機 約190人	グアム	三 沢	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H25.12.2(月)～12.20(金)	FA18×20機 MV-22×4機 約1,120	グアム	岩 国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H25.12.2(月)～12.20(金)	F15×14機 FA18×6機 約290人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	小 松	H25.12.7(土)～12.14(土)	F15×6機 約90人	II	嘉手納	無	悪天候のため9日、11日のみ実施	
	グアム	H26.2.10(月)～2.28(金)	F16×12機 約260人	グアム	三 沢	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H26.2.10(月)～2.28(金)	F15×18機 約420人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
計	千 歳:1回 小 松:1回 三 沢:0回 築 城:0回 百 里:0回 新田原:1回 グアム:7回 計:10回		I :0回 II:3回 グアム:7回	三 沢:3回 岩 国:3回 嘉手納:4回	1基地派遣			

年度	基地名	訓練期間	参加規模(米軍)	訓練タイプ	参加部隊	視察有無	備考	
26	計 画	グアム等への訓練移転を含み10回程度の実施を目標に計画予定					H26.3.28通知	
	三 沢	H26.6.12(木)～6.24(火)	FA18×10機 約180人	II	岩国	無	千歳基地F15が戦闘機戦闘訓練及び空対地射撃訓練に参加。	
	グアム	H26.6.19(木)～7.10(木)	F15×16機 約320人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H26.9.5(金)～9.26(金)	F15×16機 約320人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H26.9.15(月)～10.7(火)	FA18×16機 MV22×4機 約1,140人	グアム	岩国	無	岩国飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	新田原	H26.10.18(土)～10.31(金)	F15×12機 約200人	II	嘉手納	無		
	小 松	H26.11.7(金)～11.20(木)	F16×8機 約140人	II	三沢	無		
	グアム	H26.12.3(水)～12.19(金)	F15×18機 約400人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H27.2.2(月)～2.28(金)	F16×14機 約400人	グアム	三沢	無	三沢飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H27.2.9(月)～2.28(金)	F15×18機 約410人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	百 里	H27.3.9(月)～3.21(土)	FA18×5機 約60人	II	岩国	無		
計	千歳:0回 小松:1回 三沢:1回 築城:0回 百里:1回 新田原:1回 グアム:6回 計:10回		I:0回 II:4回 グアム:6回	三沢:2回 岩国:3回 嘉手納:5回	派遣無し			
27	計 画	グアム等への訓練移転を含み10回程度の実施を目標に計画予定					H27.3.26通知	
	グアム	H27.7.13(月)～8.7(金)	FA18×10機 約240人	グアム	岩国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H27.8.17(月)～9.4(金)	FA18×10機 約260人	グアム	岩国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	築 城	H27.8.21(金)～9.3(木)	F15×12機 約190人	II	嘉手納	無		
	百 里	H27.9.7(月)～9.18(金)	FA-18×5機 約80人	II	岩国	無		
	グアム	H27.9.11(金)～10.8(木)	FA-18×10機 EA-18×5機 約440人	グアム	岩国 三沢	無	岩国飛行場及び三沢飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	三 沢	H27.12.1(火)～12.18(金)	F-15×12機 約300人	II	嘉手納	無	千歳基地F15が戦闘機戦闘訓練に参加。	
	グアム	H27.12.2(水)～12.18(金)	FA-18×10機 EA-6B×5機 約420人	グアム	岩国	無	岩国飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	新田原	H27.12.8(火)～12.11(金)	F-15×4機 約50人	I	嘉手納	無		
	千 歳	H28.1.12(火)～1.22(金)	FA-18×5機 約70人	II	岩国	1名派遣		
	グアム	H28.2.1(月)～2.28(日)	F-16×14機 約280人	グアム	三沢	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	グアム	H28.2.7(日)～2.28(日)	F-15×18機 約460人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転。	
	小 松	H28.3.7(月)～3.18(金)	FA-18×6機 約70人	II	岩国	無		
計	千歳:1回 小松:1回 三沢:1回 築城:1回 百里:1回 新田原:1回 グアム:6回 計:12回		I:1回 II:5回 グアム:6回	三沢:2回 岩国:7回 嘉手納:4回	1基地派遣			

年度	基地名	訓練期間	参加規模(米軍)	訓練タイプ	参加部隊	視察有無	備考	
28	計 画	グアム等への訓練移転を含み10回程度の実施を目標に計画予定					H28.4.4通知	
	グアム	H28.7.19(火)～8.12(金)	EA-18G×5機 約190人	グアム	三沢	無	三沢飛行場で実施予定であった訓練をグアム等への移転	
	小 松	H28.7.25(月)～7.29(金)	F-15×5機 約90人	I	嘉手納	無		
	グアム	H28.9.8(木)～9.23(金)	F-15×5機 EA-18G×5機 約400人	グアム	嘉手納 三沢	無	嘉手納飛行場及び三沢飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
	グアム	H28.9.8(木)～9.27(火)	F-15×12機 約340人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
	千 歳	H28.12.5(月)～12.16(金)	AV-8B×4機 約90人	II	岩国	1名派遣		
	グアム	H29.2.15(水)～3.3(金)	F-15×12機 FA-18×8機 約700人	グアム	嘉手納 岩国	無	嘉手納飛行場及び岩国飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
	グアム	H29.2.15(水)～3.3(金)	F-16×14機 EA-18×6機 約440人	グアム	三沢	無	三沢飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
計	千歳:1回 三沢:0回 百里:0回 グアム:5回	小松:1回 築城:0回 新田原:0回		I:1回 II:1回 グアム:5回	三沢:3回 岩国:2回 嘉手納:4回	1基地派遣		
29	計 画	グアム等への訓練移転を含み10回程度の実施を目標に計画予定					H29.3.29通知	
	グアム	H29.4.20(木)～5.8(月)	F-15×14機 約270人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
	三沢	H29.7.7(金)～7.14(金)	F-15×6機 約160人	II	嘉手納	無		
	百里	H29.7.7(金)～7.21(金)	FA-18×6機 約140人	II	岩国	無		
	築城	H29.9.30(土)～10.7(土)	F-16×6機 約100人	II	三沢	無		
	新田原	H30.1.19(金)～1.26(金)	F-15×6機 約140人	II	嘉手納	無	米軍の運用上の都合(火山活動が飛行の安全に影響を及ぼす可能性があるため)中止	
	百里	H30.1.22(月)～1.26(金)	F-16×5機 約100人	I	三沢	無	米軍の運用上の都合(米国防政府の予算措置の関係上)により中止	
	グアム	H30.2.8(木)～3.6(火)	F-15×12機 FA-18×8機 約660人	グアム	嘉手納 岩国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
グアム	H30.2.12(月)～3.9(金)	F-16×14機 約300人	グアム	三沢	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転		
計	千歳:0回 三沢:1回 百里:1回 グアム:3回	小松:0回 築城:1回 新田原:0回		I:0回 II:3回 グアム:3回	三沢:2回 岩国:2回 嘉手納:3回	0基地派遣		
30	計 画	グアム等への訓練移転を含み10回程度の実施を目標に計画予定					H30.3.16通知	
	百里	H30.4.6(金)～4.12(木)	FA-18×5機 約60人	I	岩国	無		
	千歳	H30.4.23(月)～4.27(金)	F-16×6機 約100人	II	三沢	1名派遣		
	三沢	H30.5.9(水)～5.24(木)	F-35×8機 約140人	II	岩国	無		
	小松	H30.7.16(月)～7.20(金)	F-15×6機 約120人	II	嘉手納	無		
	グアム	H30.9.4(火)～9.30(日)	F-15×12機 EA-18×5機 約500人	グアム	嘉手納 三沢	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
	グアム	H30.9.4(火)～9.30(日)	FA-18×10機 F-35×8機 約960人	グアム	岩国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
	グアム	H30.9.10(月)～9.21(金)	F-15×12機 約290人	グアム	嘉手納	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
	新田原	H30.10.27(土)～11.8(木)	F-15×8機 約140人	II	嘉手納	無		
	築城	H30.11.5(月)～11.8(木)	F-16×6機 約80人	II	三沢	無		
	グアム	H31.2.11(月)～3.7(木)	F-16×14機 約310人	グアム	三沢	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
	グアム	H31.2.13(水)～3.12(火)	F-15×12機 FA-18×10機 約670人	グアム	嘉手納 岩国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転	
グアム	H31.3.11(月)～3.29(金)	FA-18×17機 約400人	グアム	岩国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練をグアム等へ移転		
計	千歳:1回 三沢:1回 百里:1回 グアム:6回	小松:1回 築城:1回 新田原:1回		I:1回 II:5回 グアム:6回	三沢:4回 岩国:5回 嘉手納:5回	1基地派遣		



年度	基地名	訓練期間	参加規模(米軍)	訓練 タイプ	参加部隊	視察有無	備考
31 ・ 令和 元	計	Guam等への訓練移転を含み10回程度の実施を目標に計画予定					H31.3.26通知
	Guam	H31.4.22(月)～4.27(土)	F-15×6機 F-16×6機 約270人	Guam	嘉手納 三沢	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練を Guam等へ移転
	Guam	R1.6.3(月)～6.28(金)	FA-18×10機 約200人	Guam	岩国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓練を Guam等へ移転
	小松	R1.10.1(火)～10.4(金)	F-16×6機 約100人	II	三沢	無	
	三沢	R1.10.10(木)～11.4(月)	FA-18×12機 約170人	II	岩国	無	土日祝並びに10/10、11、28日は訓練は行われていない。
	計	千歳:0回 小松:1回 三沢:1回 築城:0回 百里:0回 新田原:0回 Guam:2回 計:4回		I:0回 II:2回 Guam:2回	三沢:2回 岩国:2回 嘉手納:1回		

(お知らせ)

令和元年9月20日  
防 衛 省

米軍再編に係る三沢飛行場から小松基地への訓練移転に関する訓練  
計画概要について

米軍再編に係る三沢飛行場から小松基地への訓練移転（共同訓練）に関する訓練計画概要について、以下のとおりとなりましたので、お知らせします。

今回で訓練移転は99回目（国内55回、グアム等44回）となり、国内への訓練移転は、平成18年5月の再編の実施のための日米ロードマップに基づき、二国間の相互運用性の向上及び米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減するために行われるものです。

- 期 間：令和元年10月1日（火）～10月4日（金）
- 参加部隊：〔米軍〕
  - 第35戦闘航空団（三沢）
  - 〔航空自衛隊〕
  - 第6航空団（小松）、中部航空警戒管制団（入間）
- 使用基地：小松基地
- 演 練 項 目：戦闘機戦闘訓練等
- 使用訓練空域：小松沖空域
- 参加規模：タイプⅡ
  - 〔米軍〕
  - F-16×6機程度、人員100名程度
  - ※人員、物資輸送のため輸送機が期間の前後に飛来する予定
  - 〔航空自衛隊〕
  - F-15×4機程度

※ 本内容については、今後、変更される場合があります。

以 上

## 小松基地訓練移転調査結果

### 1 訓練概要

- (1) 訓練時期 令和元年10月1日(火)～10月4日(金)
- (2) 訓練形態 タイプII
- (3) 参加部隊 【米 軍】第35戦闘航空団(三沢)  
【航空自衛隊】第6航空団(小松)、中部航空警戒管制団(入間)
- (4) 演練項目 戦闘機戦闘訓練等
- (5) 訓練空域等 小松沖空域
- (6) 参加規模 【米 軍】F-16×6機程度、人員100名程度  
※人員、物資輸送のため輸送機が期間の前後に飛来する予定  
【航空自衛隊】F-15×4機程度

### 2 調査事項

	近畿中部防衛局	小 松 市	加 賀 市
日米共同訓練に係る協定	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和50年10月4日締結の航空自衛隊小松基地の運用に関する協定「協定書」(10.4協定)を遵守</li> <li>昭和57年9月24日締結「日米共同訓練に関する協定書」の枠(訓練期間は年約4回年間合計約4週間)の中で実施</li> <li>※訓練移転開始以前から変更なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10.4協定及び昭和57年の日米共同訓練に関する協定の中で実施</li> <li>※訓練移転開始以前から変更なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10.4協定及び昭和57年の日米共同訓練に関する協定の中で実施</li> <li>※訓練移転開始以前から変更なし</li> </ul>
住民周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>公表 9月20日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概略通知 9月20日</li> <li>議会、周辺整備協議会へ通知、HPに掲載</li> <li>※前回の訓練移転時と同様</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月20日：正式通知(近畿中部防衛局地方調整課⇒市政推進課)</li> <li>同日、基地周辺整備協議会及び議会(基地・防災特別委員会)へメールで通知文書を送付、騒音地区の区長にはFAXで通知文書を送付</li> <li>※現地対策本部から連絡があり次第都度同様に連絡を行った</li> </ul>
米兵の行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地対策本部長が米軍飛行隊長を表敬し安全確保及び服務規律の保持を要請</li> <li>米軍要員は、基地内外来宿舎に宿泊</li> <li>局は市街地巡回を行いつつ、小松基地関係自治体及び警察との連携を維持</li> <li>外出あり、苦情、トラブル等なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市としては、特別な体制は取らずに近畿中部防衛局対策本部から飛行場課長の携帯電話に連絡が入る体制を取った</li> <li>苦情、トラブル等なし</li> <li>※前回の訓練移転時と同様</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市としては特別な体制は取らなかった(近畿中部防衛局が現地対策本部を設置)</li> <li>問題等が発生した場合には、現地対策本部から市企画課へ連絡が入る体制を取った。</li> <li>苦情、トラブル等の連絡はなし</li> <li>※前回の訓練移転時と同様</li> </ul>
騒音	<ul style="list-style-type: none"> <li>局は、訓練期間中を通して騒音測定を実施</li> <li>測定ポイントは小松市内2カ所、加賀市内及び能美市内に各1カ所を設定</li> <li>離陸方向に応じ、2カ所で測定(小松市内1カ所加賀または能美市内の1カ所)</li> <li>訓練初日は小松市内の2カ所において測定を行い、報道に公開</li> <li>小松飛行場周辺整備協議会は独自に測定を実施(局の測定ポイントと同じ)</li> <li>騒音苦情件数 : 0件</li> <li>米軍機最大値 : 104.0 dB</li> <li>自衛隊機最大値 : 108.0 dB</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近畿中部防衛局と小松市と共同測定(周辺整備協議会の立会い)で2箇所の騒音調査</li> <li>結果は、11月中旬HPで公表予定</li> <li>騒音苦情件数 : 0件</li> <li>騒音測定結果の最大値 米軍機 : 102.0 dB 自衛隊機 : 103.0 dB</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市独自の騒音測定は実施していない</li> <li>近畿中部防衛局による騒音測定は、10月2、3日に実施(後日、測定結果報告を受けた)</li> <li>騒音苦情件数 : 0件</li> <li>米軍機最大値 : 104.0 dB</li> <li>自衛隊機最大値 : 108.0 dB</li> </ul>

(お知らせ)

令和元年9月20日  
防 衛 省

米軍再編に係る岩国飛行場から三沢基地への訓練移転に関する訓練  
計画概要について

米軍再編に係る岩国飛行場から三沢基地への訓練移転（共同訓練）に関する訓練計画概要について、以下のとおりとなりましたので、お知らせします。

今回で訓練移転は100回目（国内56回、グアム等44回）となり、国内への訓練移転は、平成18年5月の再編の実施のための日米ロードマップに基づき、二国間の相互運用性の向上及び米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減するために行われるものです。

- 期 間：令和元年10月10日（木）～11月4日（月）  
（ただし、土日祝日並びに10月10日（木）、11日（金）、28日（月）は、訓練を行わない。）
- 参 加 部 隊：〔米軍〕  
第12海兵航空群（岩国）  
〔航空自衛隊〕  
第3航空団（三沢）、第2航空団（千歳）、  
北部航空警戒管制団（三沢）
- 使 用 基 地：三沢基地
- 演 練 項 目：戦闘機戦闘訓練及び空対地射爆撃訓練等
- 使用訓練空域：三沢東方空域、秋田西方空域及び三沢対地射爆撃場
- 参 加 規 模：タイプⅡ  
〔米軍〕  
F/A-18×12機程度、人員170名程度  
※人員、物資輸送のため輸送機が期間の前後に飛来する予定  
〔航空自衛隊〕  
F-2×4機程度、F-15×4機程度

※ 本内容については、今後、変更される場合があります。

以 上

米軍再編に係る訓練移転に関する沖縄県の負担軽減調査結果

照会項目	沖 縄 市	嘉 手 納 町	北 谷 町
(1) 平成30年度の環境基準超過日数を教えてください。	市内の5ヶ所の測定局 298 日	町内の4ヶ所の測定局 709 日	町内の5ヶ所の測定局 317 日
	市内の5ヶ所の測定局 230 日	町内の4ヶ所の測定局 584 日	町内の5ヶ所の測定局 227 日
2 年 度 の 比 較	-68 日	-125 日	-90 日
(2) 平成30年度に嘉手納基地へ飛来した外来機の機数につきまきまして、把握されておりましたらお教えください。	<p>沖縄防衛局の情報で把握している。</p> <p>沖縄防衛局からの情報提供、新聞報道等に基づいて作成しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度 61機</li> <li>・平成19年度 42機</li> <li>・平成20年度 105機</li> <li>・平成21年度 358機</li> <li>・平成22年度 252機</li> <li>・平成23年度 75機</li> <li>・平成24年度 98機</li> <li>・平成25年度 50機</li> <li>・平成26年度 86機</li> <li>・平成27年度 49機</li> <li>・平成28年度 47機</li> <li>・平成29年度 87機</li> <li>・平成30年度 45機</li> </ul>	<p>本町では、北谷町、嘉手納町、沖縄市で構成する嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会（三連協）による嘉手納飛行場の飛行経路目視調査を年に数回実施し、同飛行場所属戦闘機等の飛行経路に関する実態把握に努めております。</p> <p>しかしながら、特定の訓練以外は事前通告もなく頻りに外来機が飛来しており、外来機の機数については把握が困難な状況ですので、本町で確認できている分の嘉手納基地への外来機の飛来機数について提供いたします。（48機）</p> <p>また、沖縄防衛局は嘉手納飛行場における有人による航空機運用実態日視調査を24時間行っており、常駐機・外来機の機種や離着陸回数を調査し、毎月嘉手納飛行場周辺の目付体（北谷町、嘉手納町、沖縄市）へ提供しております。</p>	<p>平成30年度における在日米軍再編に係る嘉手納飛行場から他基地への訓練移転は5回実施され、北谷町内に設置されている航空機騒音測定局の環境基準値の超過日数についても、平成29年度と比較しますと5割減少しております。</p> <p>しかし、平成29年10月31日から平成30年5月5日までの間、アメリカ・ユタ州・ヒル空军基地からF-35A ライトニングII戦闘機が12機暫定配備され、また、平成30年5月30日から平成30年7月初旬までアメリカ・アラバマ州・エドメンズトッド基地からF-22A ラブター戦闘機が14機暫定配備されました。</p> <p>さらにF-35B ライトニングIIやF/A-18 スーパーホーネット等も度々嘉手納基地へ飛来し、常駐機のF15C/Dイーグル戦闘機及び外来機の騒音で住民は過重な負担を強いられている現状です。</p> <p>年間の航空機騒音及び低空飛行・飛行経路に関する苦情についても、平成29年度の133件に対し、平成30年度は195件と62件の増加となっており、依然として騒音被害は軽減されておらずと考えております。</p>
(3) 平成30年度の訓練移転実施により、貴市（町）への負担が軽減されたとお考えですか。	<p>外来機の飛来・暫定配備による訓練が実施された場合、航空機騒音が激化する傾向があり、常駐機の訓練移転による負担軽減がなかなか実感できない状況があります。</p> <p>負担軽減を目に見えぬ形にするためには、訓練移転と併せて、外来機の飛来を抑制する必要があると考えております。</p>	<p>平成30年度の訓練移転期間中の負担軽減については、9/4-9/30の期間において、外来機の飛来があったにもかかわらず、Lden値及び騒音回数の1日平均値が、1年を通して算出した1日平均値と比較して軽減された結果となっております。（嘉手納地区のLden値のみ微増）</p> <p>しかし、その期間を除いては、外来機の飛来等もあり、Lden値及び騒音回数の1日平均値の比較ではそれほど差が見られず、負担軽減を実感するまでに至りませんでした。</p> <p>平成24年2月に実施された訓練移転では、期間中の航空機騒音が今回以上に大きく激減し、効果を実感しました。</p> <p>本町は、上記のような状況が多く再現されるよう、政府及び関係機関に対し要請を行っております。</p>	

# 嘉手納基地周辺地域騒音測定結果及び嘉手納基地への外来機数

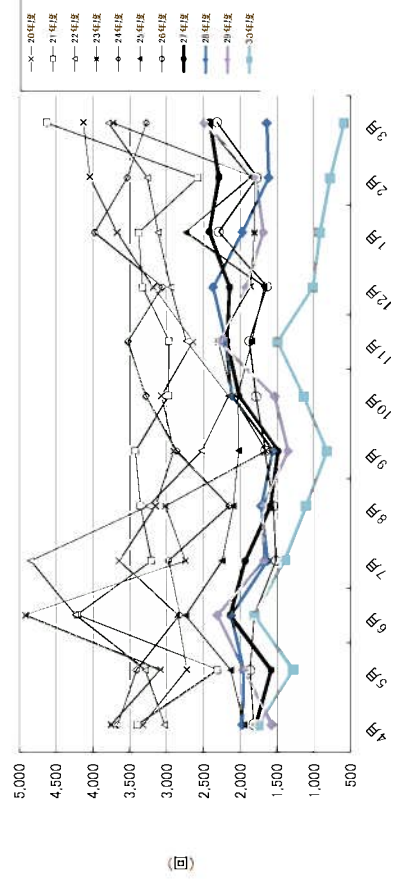
## 嘉手納基地周辺地域騒音測定結果

嘉手納町 測定局名：屋良（やら）

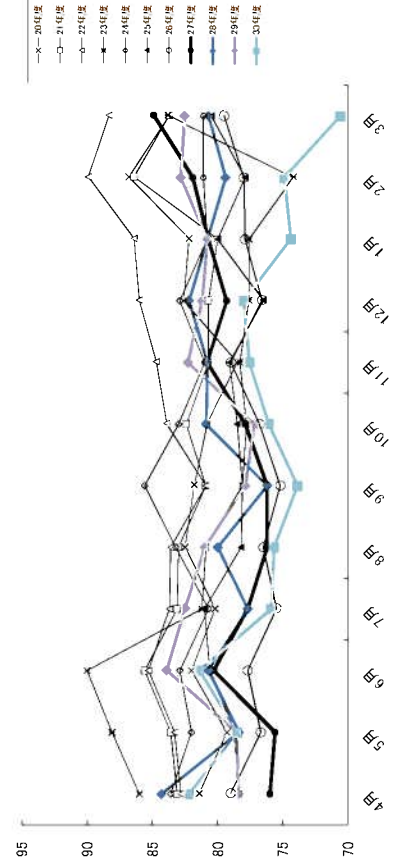
観測回数	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
4月	3,323	3,399	3,028	3,757	3,667	1,951	1,820	1,785	1,975	1,578	1,760
5月	2,730	2,313	3,292	3,086	3,408	2,129	1,868	1,581	1,960	1,951	1,290
6月	2,854	4,217	4,241	4,915	2,827	2,744	1,811	2,138	2,127	2,314	1,811
7月	3,645	3,206	4,846	2,746	2,977	2,249	1,518	1,934	1,635	1,682	1,405
8月	3,152	3,357	3,250	3,017	2,151	2,095	1,550	1,591	1,718	1,695	1,111
9月	2,904	3,427	2,528	1,660	2,866	2,027	1,668	1,489	1,562	1,354	824
10月	3,073	2,979	2,164	2,107	3,281	2,040	1,787	2,016	2,118	1,535	1,142
11月	2,645	2,971	2,738	2,298	3,526	1,841	1,879	2,183	2,200	2,287	1,496
12月	3,185	3,327	2,945	1,862	3,060	1,676	1,641	2,147	2,371	1,917	1,016
1月	3,674	3,383	3,116	1,810	3,979	2,739	2,298	2,427	1,977	1,691	923
2月	4,042	2,579	3,264	1,816	3,536	1,859	1,776	2,294	1,619	1,790	783
3月	4,130	4,627	3,792	3,729	3,276	2,482	2,318	2,411	1,644	2,490	594

WCPNL	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
4月	81.4	83.1	82.8	86.0	83.6	78.4	79.0	76.0	84.3	78.4	82.2
5月	79.3	83.6	83.3	88.1	82.0	78.7	76.7	75.6	78.4	78.6	78.5
6月	82.0	85.6	85.3	90.0	82.9	80.6	77.7	80.3	80.7	83.9	81.4
7月	80.2	83.1	83.7	81.2	80.7	81.0	75.5	77.7	77.7	82.5	75.9
8月	82.5	83.0	83.6	80.9	83.2	78.2	76.5	76.2	80.0	81.0	75.7
9月	81.8	80.9	80.9	78.1	85.6	78.1	75.2	76.2	76.2	77.9	73.9
10月	80.8	82.4	83.9	77.8	83.0	78.5	76.8	77.9	80.9	77.2	76.1
11月	78.5	80.7	84.7	78.3	81.0	79.1	79.0	80.8	80.8	82.3	77.6
12月	82.6	80.7	86.0	77.6	82.9	76.5	76.6	79.3	82.2	81.2	78.0
1月	82.2	80.0	86.4	77.6	80.8	80.0	77.9	80.7	80.8	80.8	74.4
2月	86.8	86.4	89.9	74.2	81.1	77.9	78.0	81.9	79.4	82.8	74.9
3月	83.7	83.7	88.3	83.8	81.1	80.5	79.5	84.9	80.7	82.5	70.6

観測回数



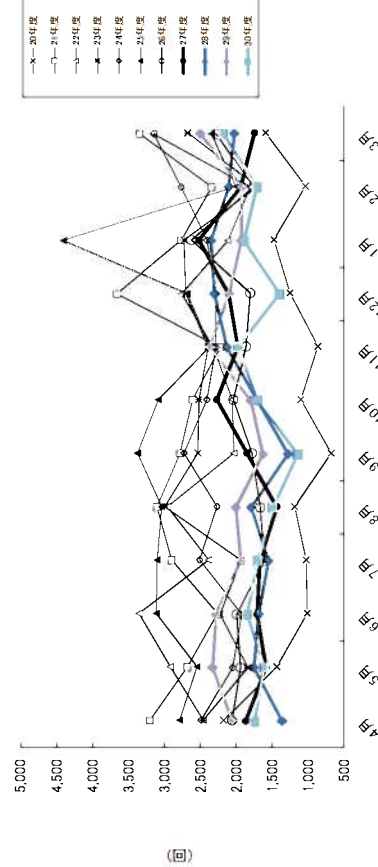
WECPNL



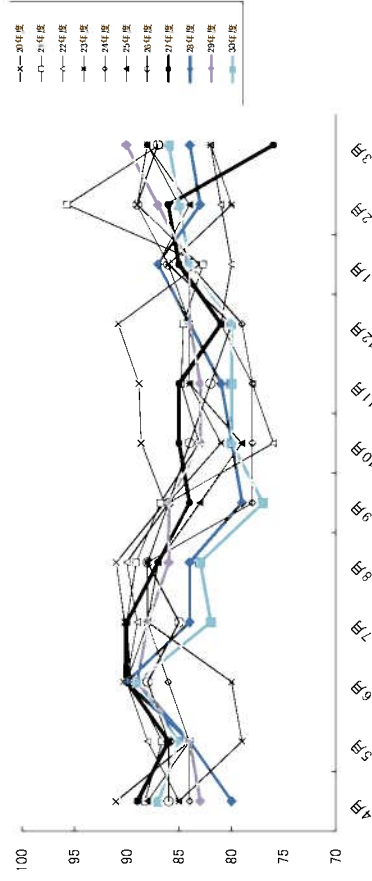
北谷町 測定局名：砂辺（すなべ）

観測回数	WECPNL										観測回数											
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
4月	2,179	3,201	2,461	2,461	2,491	2,788	2,062	1,870	1,368	2,060	1,752	2,179	3,201	2,461	2,461	2,491	2,788	2,062	1,870	1,368	2,060	1,752
5月	1,439	2,679	2,918	1,839	2,052	2,547	1,941	1,588	1,759	2,335	1,611	1,439	2,679	2,918	1,839	2,052	2,547	1,941	1,588	1,759	2,335	1,611
6月	1,016	2,262	3,355	2,228	1,927	3,114	1,996	1,713	1,692	2,288	1,856	1,016	2,262	3,355	2,228	1,927	3,114	1,996	1,713	1,692	2,288	1,856
7月	1,031	2,900	2,386	1,942	2,510	3,100	1,612	1,672	1,557	1,942	1,701	1,031	2,900	2,386	1,942	2,510	3,100	1,612	1,672	1,557	1,942	1,701
8月	1,188	3,103	2,959	2,995	2,269	3,038	1,669	1,436	1,794	2,010	1,494	1,188	3,103	2,959	2,995	2,269	3,038	1,669	1,436	1,794	2,010	1,494
9月	681	2,783	2,036	2,537	2,729	3,374	1,784	1,853	1,282	1,634	1,148	681	2,783	2,036	2,537	2,729	3,374	1,784	1,853	1,282	1,634	1,148
10月	1,103	2,609	2,057	2,518	2,410	3,085	2,042	2,271	1,709	1,802	1,707	1,103	2,609	2,057	2,518	2,410	3,085	2,042	2,271	1,709	1,802	1,707
11月	865	2,222	2,324	2,393	2,282	2,365	1,866	1,983	2,135	2,376	1,980	865	2,222	2,324	2,393	2,282	2,365	1,866	1,983	2,135	2,376	1,980
12月	1,256	3,667	2,762	2,708	2,281	2,883	1,809	2,109	2,307	2,103	1,400	1,256	3,667	2,762	2,708	2,281	2,883	1,809	2,109	2,307	2,103	1,400
1月	1,479	2,768	2,119	2,734	2,416	4,410	2,629	2,526	2,357	1,936	1,897	1,479	2,768	2,119	2,734	2,416	4,410	2,629	2,526	2,357	1,936	1,897
2月	1,040	2,342	1,807	1,711	2,769	2,014	1,765	1,939	2,108	1,925	1,719	1,040	2,342	1,807	1,711	2,769	2,014	1,765	1,939	2,108	1,925	1,719
3月	1,594	3,349	3,158	2,677	3,149	2,348	2,285	1,749	2,030	2,504	2,181	1,594	3,349	3,158	2,677	3,149	2,348	2,285	1,749	2,030	2,504	2,181

観測回数



WECPNL



沖繩市 測定局名：知花（ちばな）

観測回数	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
4月	1,260	1,455	1,344	1,334	873	1,618	1,561	1,512	865	1,691	1,579
5月	540	1,164	1,467	723	955	1,018	1,481	1,217	1,244	1,980	1,350
6月	1,011	1,266	1,548	801	382	1,102	1,103	1,142	955	1,681	1,388
7月	1,627	1,147	919	683	993	1,176	938	1,321	782	1,151	1,091
8月	1,755	1,236	1,230	1,347	1,069	1,289	1,052	1,178	1,280	1,675	1,235
9月	1,454	1,111	944	1,210	978	1,534	1,329	1,417	866	1,225	986
10月	1,524	961	997	1,190	1,086	1,504	1,652	1,703	1,346	1,623	1,489
11月	1,025	968	1,257	1,012	916	1,444	1,382	1,673	1,716	2,122	1,605
12月	1,395	1,272	1,227	1,218	882	1,434	1,481	1,734	1,921	1,905	1,083
1月	1,811	968	1,304	1,242	943	2,322	2,089	2,054	1,957	1,573	1,606
2月	1,599	750	1,348	788	968	1,480	1,636	1,667	1,839	1,739	1,344
3月	1,585	824	1,223	981	1,404	1,908	1,892	1,487	1,834	2,286	1,826

嘉手納基地への外来機数

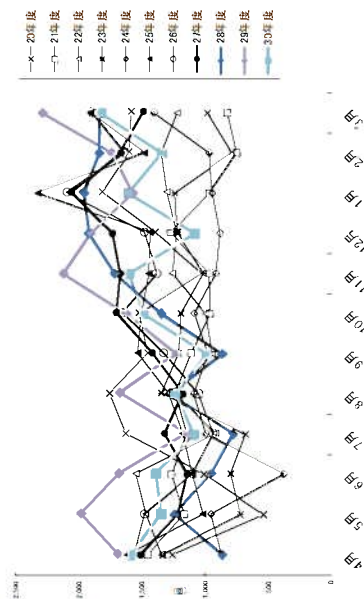
WCPNL	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
4月	74.4	68.5	73.0	73.0	72.0	75.0	74.0	72.0	71.0	71.0	76.0
5月	68.4	69.7	75.0	75.0	72.0	74.0	71.0	69.0	72.0	73.0	71.0
6月	71.1	71.1	77.0	69.0	68.0	73.0	71.0	70.0	70.0	74.0	74.0
7月	70.7	73.7	71.0	74.0	71.0	73.0	71.0	71.0	67.0	72.0	71.0
8月	74.2	71.1	74.0	76.0	74.0	71.0	71.0	70.0	69.0	71.0	69.0
9月	71.7	72.8	71.0	74.0	70.0	74.0	70.0	83.0	67.0	69.0	66.0
10月	72.3	67.9	68.0	72.0	70.0	74.0	73.0	74.0	70.0	71.0	72.0
11月	68.5	67.0	71.0	71.0	70.0	72.0	75.0	73.0	72.0	77.0	72.0
12月	68.4	69.4	72.0	74.0	70.0	73.0	71.0	74.0	73.0	76.0	70.0
1月	68.5	68.5	72.0	73.0	73.0	77.0	76.0	75.0	73.0	76.0	73.0
2月	75.9	70.7	73.0	67.0	74.0	75.0	74.0	77.0	75.0	76.0	74.0
3月	70.2	71.7	74.0	72.0	75.0	76.0	75.0	70.0	74.0	77.0	74.0

※H19.1～12まで北側滑走路工事のため閉鎖  
 ※F15戦闘機不具合のため約3ヶ月一時飛行停止

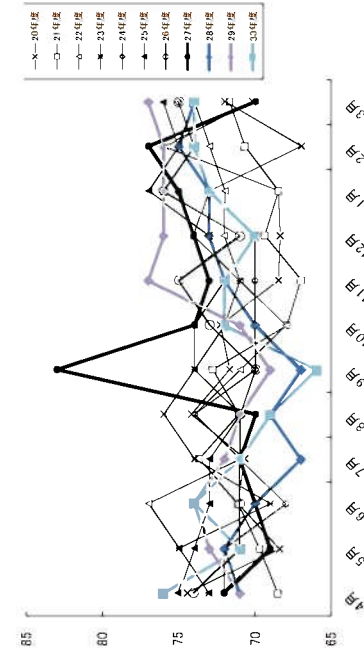
※H22.10～23.7まで南側滑走路工事のため閉鎖  
 ※H23.7～24.2まで北側滑走路改修工事のため閉鎖

29年度 87機  
 30年度 45機

観測回数



WCPNL



※H31.1～北側滑走路改修工事のため閉鎖



(お 知 ら せ)

令和元年 9 月 6 日  
航空幕僚監部

### 日豪共同訓練の実施について

航空自衛隊は、日豪共同訓練（武士道ガーディアン19）を下記のとおり実施します。

#### 記

#### 1 目的

豪空軍との共同訓練を実施することにより、部隊の戦術技量の向上及び相互理解の促進並びに防衛協力の深化を図る。

#### 2 期間（基準）

##### （1）全般

令和元年 9 月 11 日（水）から同年 10 月 8 日（火）

##### （2）豪空軍の展開、撤収等

9 月 11 日（水）先遣隊人員到着

9 月 12 日（木）輸送機到着

9 月 20 日（金）戦闘機展開

9 月 24 日（火）から同年 10 月 4 日（金）（9 日間） 戦闘機訓練

10 月 5 日（土）戦闘機撤収

#### 3 訓練実施場所

千歳基地、三沢基地及び同周辺空域（豪空軍戦闘機等の展開基地は千歳基地）

#### 4 実施部隊（基準）

##### （1）参加部隊

ア 航空自衛隊

航空総隊（北部航空方面隊）

イ 豪空軍

第 81 航空団第 77 飛行隊を主とする訓練部隊

##### （2）参加規模

ア 航空自衛隊

F-15 戦闘機 10 機及び F-2 戦闘機 3 機

イ 豪空軍

F/A-18A/B 戦闘機 7 機、KC-30 空中給油機 1 機、C-17 輸送機 1 機、C-130J 輸送機 1 機及び人員約 150 名

#### 5 訓練内容（基準）

要撃戦闘訓練、防空戦闘訓練及び戦術攻撃訓練

#### 6 その他

本訓練は、平成 30 年 10 月の日豪外務・防衛閣僚会合（2+2）の共同声明を実現するものであり、豪空軍と国内を拠点に実施する初の共同訓練

## 日豪共同訓練の実施結果について

### 1 訓練期間

令和元年9月11日(水)～10月8日(火)

うち戦闘機訓練9月24日(火)～10月3日(木)(土日を除く8日間)

### 2 参加規模

豪空軍：FA-18 戦闘機×6機、KC-30 空中給油機×1機、C-17 輸送機×1機、  
C-130J 輸送機×1機、人員約150名

航空自衛隊：F-15 戦闘機×10機、F-2 戦闘機×3機

### 3 訓練回数

9月24日(火) 3回	10月1日(火) 2回
9月25日(水) 1回	10月2日(水) 2回
9月26日(木) 3回	10月3日(木) 2回
9月27日(金) 3回	計 19回
9月30日(月) 3回	

### 4 騒音測定結果

豪空軍 FA-18 最高値 98.1dB

航空自衛隊 F-15 最高値 86.7dB

### 5 市民からの問い合わせ

苫小牧市3件(騒音2件、飛行経路1件)、千歳市及び北海道防衛局0件

### 6 豪軍人の行動

宿泊：千歳市内 外出：あり 苦情・トラブル等：なし

### 7 市の対応

○日豪共同訓練対策会議開催

○訓練計画概要の通知

・市議会議員、航空機騒音対策協議会委員、航路下町内会役員、苫小牧警察署等の  
関係機関

・市ホームページ及び市役所だよりに掲載

○航路下3地域に周知チラシ全戸配布

○北海道防衛局及び航空自衛隊千歳基地に対し訓練に関する申入れ

○市議会総合開発特別委員会へ報告

○市ホームページに訓練情報を掲載(飛行情報の随時更新、騒音測定速報値翌日更新)

### 8 主な検証結果・改善事項

○我が国における初の共同訓練であったが、事件・事故もなく無事終了した。

○市民への情報発信については、米軍再編訓練移転に準拠し、市ホームページや新聞  
の市役所だよりに掲載したほか、航路下3地域の住民にチラシを配布するなど、市  
民の安全・安心に万全を期すことができた。

○航路下3地域への周知チラシには、今後、訓練情報に加え、市としての対応につい  
ても併せて掲載する。

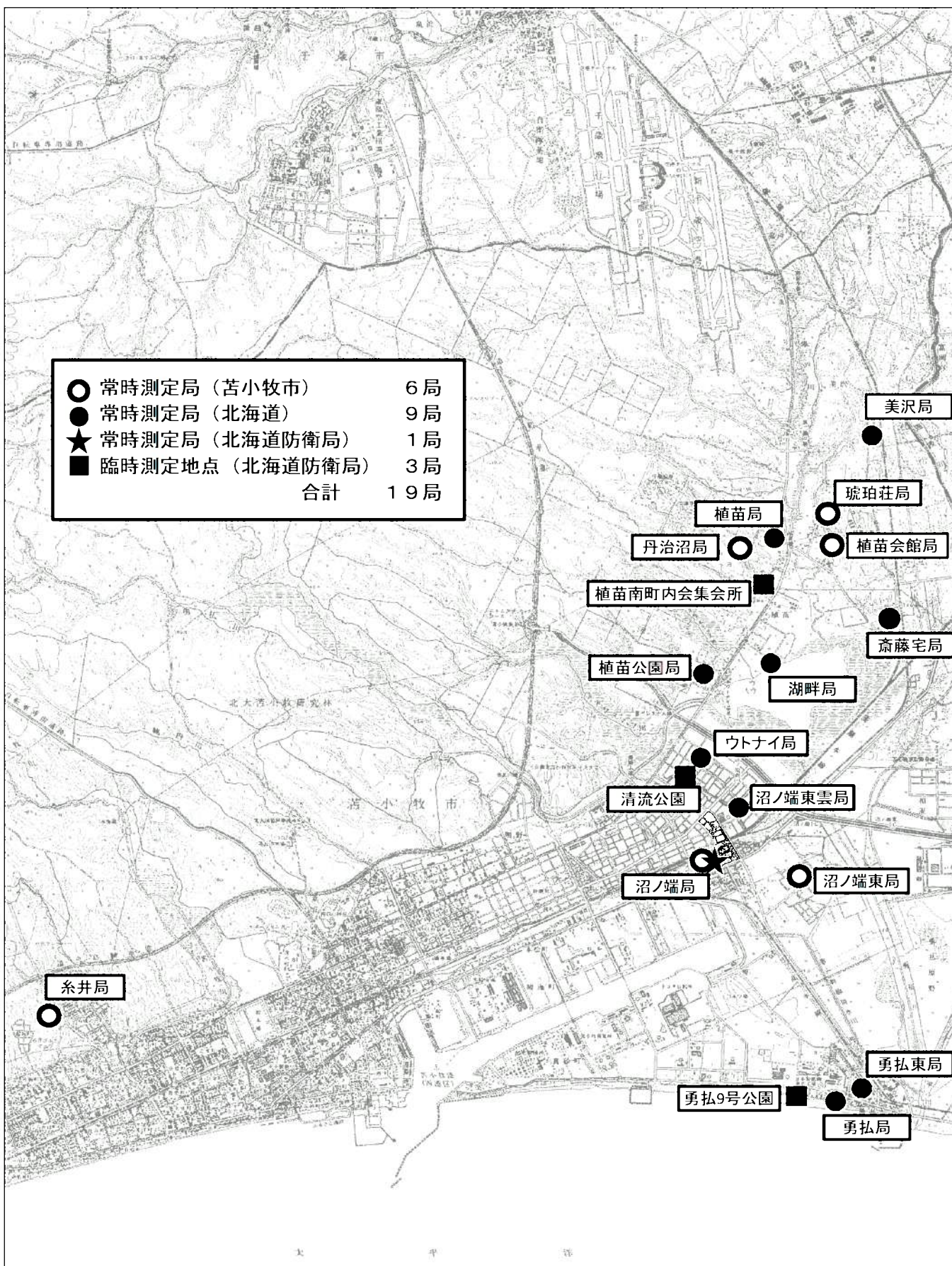
# 日豪共同訓練に伴う騒音測定結果について

令和元年9月実施

## 資料

- 日豪共同訓練に伴う騒音測定地点
- 日豪共同訓練に伴う騒音測定結果
- 苫小牧市内航空機騒音常時測定局 Lden
- 評価

# 令和元年9月 日豪共同訓練に伴う騒音測定地点



# 令和元年9月 日豪共同訓練に伴う騒音測定結果

【最高値】

【参考値】

単位:dB

		FA-18(豪軍)				F-15(自衛隊)				平成30年度(年間)		これまでの訓練移転最高値	
		苫小牧側離陸	苫小牧側着陸	千歳側離陸	千歳側着陸	苫小牧側離陸	苫小牧側着陸	千歳側離陸	千歳側着陸	最高値	平均値		
苫小牧市	常時	植苗会館局	76.8	69.8	-	-	77.9	61.8	-	-	89	65	82
		丹治沼局	88.3	80.6	-	-	86.7	72.5	-	-	92	73	96
		琥珀荘局	77.6	68.0	-	-	76.8	60.2	-	-	88	66	85
		沼ノ端東局	81.9	79.1	-	-	80.2	68.7	-	-	91	69	90
		沼ノ端局	84.8	95.4	-	-	78.6	65.2	-	-	99	68	96
		糸井	81.0	61.6	-	-	76.4	-	-	-	-	-	-
北海道	常時	植苗局	84.9	74.3	-	-	79.7	70.3	-	-	91	73	94
		ウトナイ局	85.8	96.7	-	-	82.8	77.1	-	-	99	70	99
		美沢局	74.0	66.6	-	-	77.8	-	-	-	90	63	79
		湖畔局	81.2	79.5	-	-	82.7	79.6	-	-	92	72	94
		斉藤宅局	74.6	65.0	-	-	75.3	62.2	-	-	89	64	86
		植苗公園局	88.3	98.1	-	-	84.5	81.8	-	-	96	69	97
		勇払局	76.7	75.8	-	-	70.3	-	-	-	90	67	89
		沼ノ端東雲局	85.6	92.3	-	-	82.4	75.1	-	-	96	67	96
		勇払東局	-	72.1	-	-	76.2	-	-	-	90	67	87
防衛省	臨時	植苗南町内会	86.0	79.0	-	-	81.0	70.0	-	-	-	-	96
		清流公園	74.1	93.5	-	-	72.5	-	-	-	-	-	98
		勇払9号公園	79.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	93
	常時	沼ノ端局	84.1	93.7	-	-	79.3	-	-	-	-	-	95

【備考】

- ① 苫小牧市常時測定局の測定値は、60dB以上の音が5秒以上継続したデータです。
- ② 北海道及び防衛省常時測定局の測定値は、70dB以上のデータです。
- ③ 上記表中の「-」は航空機騒音の観測が無かったことを表しています。
- ④ 参考値の平成30年度(年間)の測定値には、自衛隊機・民航機の両方の騒音を含んでいます。

## 苫小牧市内航空機騒音常時測定局 Lden

単位: dB

		訓練期間中(9月24日(火) ～10月3日(木))のLden		H30年度4月～3月の Lden日最高値
苫 小 牧 市	植苗会館局	48	～ 54	56
	丹治沼局	59	～ 61	62
	琥珀荘局	49	～ 55	58
	沼ノ端東局	52	～ 57	58
	沼ノ端局	51	～ 57	61
北 海 道	植苗局	58	～ 60	64
	ウトナイ局	52	～ 58	61
	美沢局	47	～ 50	58
	湖畔局	55	～ 60	63
	芥藤宅局	45	～ 50	57
	植苗公園局	53	～ 58	60
	勇払局	48	～ 53	56
	沼ノ端東雲局	54	～ 56	62
	勇払東局	47	～ 52	57

## 評 価

### ○騒音測定結果について

苫小牧市、北海道の常時測定局 15 局における最高値(98.1dB)は、平成 30 年度の最高値(99dB)と比較して下回っている結果でした。

※ 臨時測定点を含めた全局における最高値

豪軍機(FA-18) 植苗公園局(道常時)  
98.1dB(9 月 24 日 3 回目訓練着陸時)

自衛隊機(F-15) 丹治沼局(市常時)  
86.7dB(9 月 27 日 2 回目訓練離陸時)

### ○Lden について

苫小牧市、北海道の常時測定局 14 局(糸井局を除く)における日 Lden 値については、平成 30 年度の日最大値と比較して全て下回っていました。

今回の共同訓練における騒音については、測定値及び日 Lden 値から、第 2 航空団が行っている通常訓練の範囲内でありました。





(お知らせ)

令和元年10月17日

千 歳 基 地

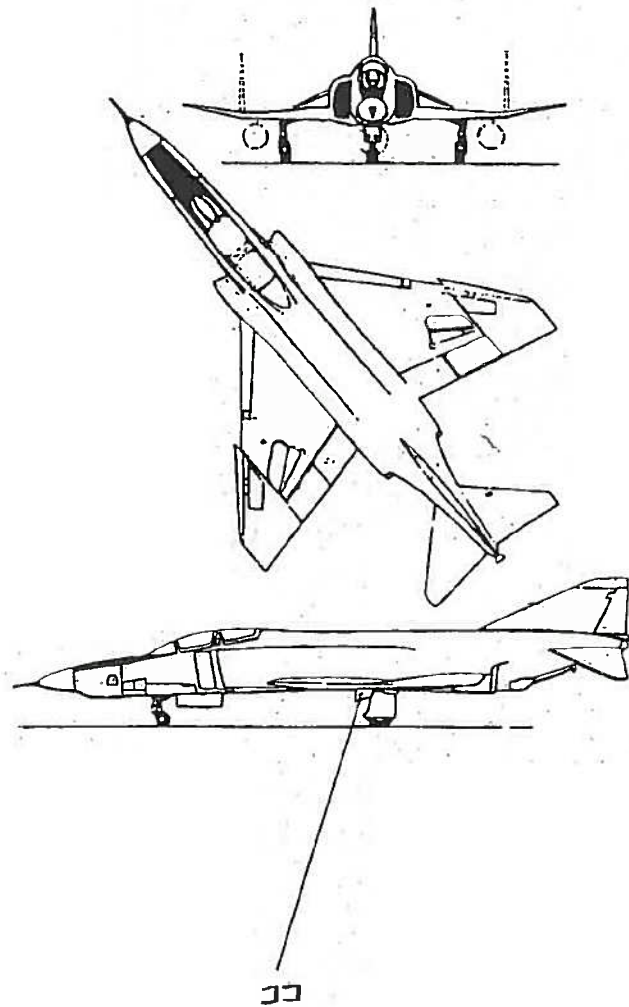
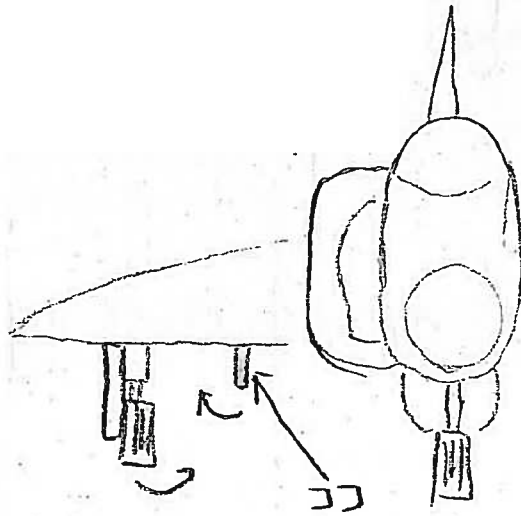
令和元年度（上期）航空機の部品落下事案について

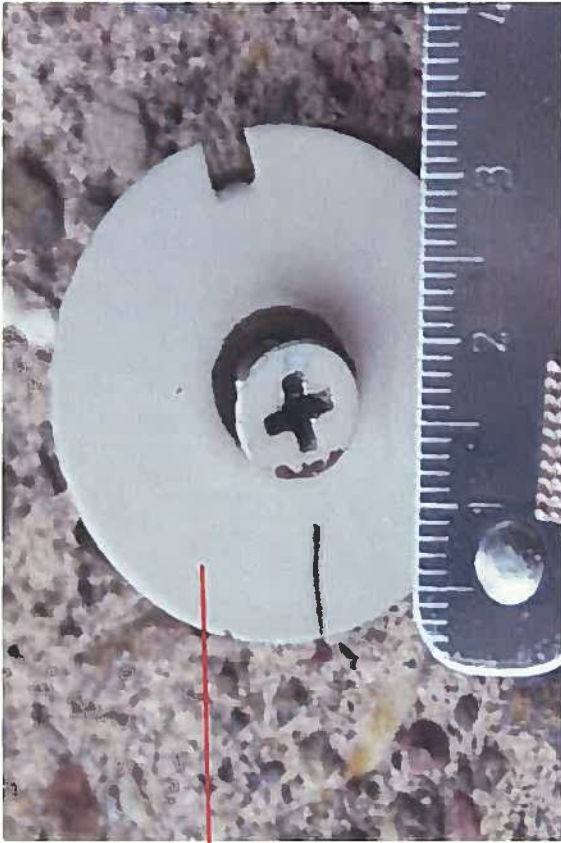
標記について、平成31年4月から令和元年9月までの部品落下事案を付紙のとおりにお知らせします。

添付書類：付紙「令和元年度（上期）千歳基地航空機の部品落下一覧表」

令和元年度（上期）千歳基地航空機の部品落下一覧表

番号	発生日	機種	落下部品	
			部位等	大きさ・形状
1	R1.6.13	RF-4E	右インボードドア・プレートアッシー	大きさ： 直径約3.3cm 厚さ約0.5mm 重さ：約8g





令和元年度  
苫小牧市航空機騒音対策協議会  
要望活動報告書

令和元年10月7～9日

千歳・札幌・東京

1 日 程 令和元年10月 7日(月) 千歳・札幌  
令和元年10月 8日(火)～9日(水) 東京  
詳細は別紙1のとおり

2 要望活動者 苫小牧市航空機騒音対策協議会  
会 長 丹羽 秀則 (千歳・札幌、東京)  
副 会 長 星野 邦夫 (千歳・札幌、東京)  
委 員 丹治 秀寛 (千歳・札幌)  
委 員 小倉 巖 (千歳・札幌)  
委 員 越川 慶一 (千歳・札幌、東京)  
委 員 広瀬 悦雄 (千歳・札幌、東京)  
委 員 竹田 秀泰 (千歳・札幌)  
委 員 牧田 俊之 (千歳・札幌、東京)  
委 員 松永 博明 (千歳・札幌)  
  
事務局長 木村 淳 (千歳・札幌、東京)  
事務局員 柴田健太郎 (千歳・札幌)  
事務局員 伊藤 貴文 (千歳・札幌、東京)  
事務局員 深山 満展 (千歳・札幌)  
事務局員 櫻井 理博 (千歳・札幌、東京)  
事務局員 蠣崎 絵美 (千歳・札幌、東京)  
事務局員 木原 繁樹 (千歳・札幌)

### 3 要望活動

- (1) 要望先及び要望書宛先 別紙2のとおり
- (2) 要望先対応者 別紙3のとおり
- (3) 要望書 別紙のとおり
- (4) 回答要旨 別紙4～6のとおり

### 4 要望活動の主な質問に対する回答要旨

別紙7～9のとおり

令和元年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望活動日程

10月7日(月) (千歳・札幌)	9:10	国土交通省	東京航空局	新千歳空港事務所
	10:15	航空自衛隊	千歳基地	
	13:35	北海道防衛局		
	15:00	AIRDO		
10月8日(火) (東京)	11:30	堀井 学	衆議院議員	
	13:00	山岡 達丸	衆議院議員	
	14:10	国土交通省	航空局	
	14:45	国土交通省 平岡 成哲	航空局 航空ネットワーク部長	
	15:00	青木 一彦	国土交通副大臣	
	16:00	国土交通省	東京航空局	
10月9日(水) (東京)	9:05	橋本 聖子	参議院議員(谷川秘書対応)	
	10:45	渡辺 孝一	防衛省大臣政務官	
	11:35	石上 誠	航空幕僚監部総務部長	

## 令和元年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望活動

- 1 日 程 令和元年10月7日(月) 千歳・札幌  
令和元年10月8日(火)～9日(水)【2日間】 東京
- 2 要望活動者 ・千歳・札幌 委員9名、事務局7名  
・東京 委員5名、事務局5名(東京事務所長を含む)

## 3 要望先及び要望書宛先名

## ■国会議員(議員会館:千代田区永田町)

衆議院議員	堀 井 学 (国交省・防衛省分)
衆議院議員	山 岡 達 丸 (国交省・防衛省分)
参議院議員	橋 本 聖 子 (国交省・防衛省分)

## ■国土交通省

国土交通大臣	赤 羽 一 嘉
国土交通副大臣	青 木 一 彦
国土交通副大臣	御法川 信 英
国土交通大臣政務官	門 博 文
国土交通大臣政務官	佐々木 紀
国土交通大臣政務官	和 田 政 宗

## ◎航空局(千代田区霞が関2-1-3)

局 長	和 田 浩 一
航空ネットワーク部長	平 岡 成 哲
航空ネットワーク部 空港業務課長	石 山 英 顕

## ◎東京航空局(千代田区九段南1-1-15) 空港民営推進課

局 長	柏 木 隆 久
次 長	竹 口 正 美
総務部長	日 巻 博 文
空港部長	勝 谷 一 則
保安部長	今 村 純
安全管理官	水 溜 雅 道
空港部次長	古 家 均
総務部総務課長	東 和 則
総務部航空振興課長	星 正 文
空港部管理課長	太 田 信 博
空港部環境・地域振興課長	宅 間 和 久
空港部空港企画調整課長	稲 又 政 樹
空港部土木建築課長	内 村 聖 信
保安部技術保安企画調整課長	鈴 木 実
保安部管制課長	田 中 たまき
保安部管制技術課長	重 田 誠

## ◎東京航空局 新千歳空港事務所(千歳市美々)

空 港 長	山 田 修
-------	-------



## ■防衛省

		騒音対策	防音
防衛大臣	河野太郎	○	○
防衛副大臣	山本朋広	○	○
防衛大臣政務官	渡辺孝一	○	○
防衛大臣政務官	岩田和親	○	○
◎防衛政策局（新宿区市谷本村町5-1）			
防衛政策局長	樋道明宏	○	
防衛政策課長	安藤敦史	○	
運用政策課長	米山栄一	○	
◎地方協力局（新宿区市谷本村町5-1）			
地方協力局長	中村吉利	○	○
地方協力企画課長	品川高浩	○	○
地方調整課長	宮川均	○	○
防音対策課長	扇谷治	○	○
◎航空幕僚監部（新宿区市谷本村町5-1）			
航空幕僚長	丸茂吉成	○	
航空幕僚副長	荒木文博	○	
総務部長	石上誠	○	
運用支援・情報部 運用支援課長	藤田輝章	○	
総務部 総務課 基地対策室長	田中信隆	○	
◎航空自衛隊第2航空団（千歳市平和）			
千歳基地司令	徳重広為智	○	
◎北海道防衛局（札幌市中央区大通西1-2）			
局長	末永広	○	○
次長	本田光徳	○	○
企画部長	諏訪匡志	○	○
統括調整官	滝川和志	○	○

令和元年度 苫小牧市航空機騒音対策協議会 要望先対応者

地元選出国會議員

自由民主党	衆議院議員	堀井 学
自由民主党	参議院議員	橋本 聖子(秘書対応)
国民民主党	衆議院議員	山岡 達丸

国土交通省

国土交通副大臣		青木 一彦
航空局	航空ネットワーク部	部長(表敬訪問)
	航空ネットワーク部 空港業務課	課長
	〃	騒音防止技術室長兼環境対策企画室長
	〃	空港周辺地域活性化推進室 室長
	〃	地域振興・環境調整官
	〃	専門官
	〃 交通管制部 交通管制企画課	航空管制調査官
	〃 空港経営改革推進室 専門官	公認会計士
東京航空局	空港部	部長
	〃	次長
	〃 空港企画調整課	課長
	〃 空港経営改革調整課	課長
	〃 土木建築課	課長
	〃 環境・地域振興課	課長
	〃 管理課	課長
	〃 運用課	課長
	〃 総務部 総務課	課長
	〃	専門官
東京航空局	新千歳空港事務所	空港長
	〃	次長
	〃	総務部長
	〃	管制保安部長
	〃	施設部長
	〃	総務課長
	〃	総務課長補佐

防衛省

防衛大臣政務官		渡辺 孝一
航空幕僚監部		総務部長(表敬訪問)
北海道防衛局		局長(表敬訪問)
		次長(表敬訪問)
		統括調整官
	地方調整課	課長
	地方調整課	課長補佐
	〃 防音対策課	課長
	〃 防音対策課	課長補佐
	〃 企画調整課	係長
航空自衛隊第2航空団		部長
司令部	監理部	基地対策室長
	〃	基地対策専門官
	〃	

# 要 望 書

「航空機騒音の一層の軽減及び安全対策」について、別記理由により特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年10月 日

苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧市航空機騒音対策協議会

会 長 丹羽秀則

# 理 由 書

新千歳空港は、国際線ターミナルビルの整備など国内線及び国際線の拠点空港として、基盤を整えてきております。

一方、航空機の離着陸機数の増加、運航時間の延長により、航空機の騒音や事故などが一層増えており、空港周辺の住民は、生活環境への影響や航空機事故に対する不安を抱えながら、生活している状況にあります。

国におきましては、騒音軽減対策及び安全対策を実施されているところではありますが、さらに下記事項について、貴職の特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

- 1 着陸時における住宅街での飛行高度を遵守すること並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること

また、離陸時の飛行として住宅街を避けるコースを設定すること

- 2 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること

特に、深夜の静穏保持の観点から、遅延便等の一層の抑制に向け、航空会社への指導強化を行うこと

- 3 低騒音機種への切替えを促進すること

- 4 外国貨物機の騒音軽減について引き続き指導を行うこと

- 5 航空機等の点検整備など、安全管理を徹底すること

また、航空機事故の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること

# 要 望 書

「航空機騒音の一層の軽減及び安全対策」について、別記理由により特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年10月 日

苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧市航空機騒音対策協議会

会長 丹羽秀則

# 理 由 書

千歳飛行場は、航空自衛隊の基幹飛行場として重要性が高まっております。

近年、千歳飛行場では、航空自衛隊の通常訓練と政府専用機の訓練に加え、在日米軍再編に伴う訓練移転の開始により航空機騒音が増え、また、自衛隊機や米軍機の事故などが繰り返し発生しております。

一方、宅地開発などにより、航路下地域の人口が増加するなど周辺環境に変化が現れてきております。その結果、飛行場周辺の住民は、航空機騒音による生活環境への影響を受け、また、戦闘機事故に対する不安を抱えながら生活をしている現状にあります。

国におきましては、騒音軽減対策及び安全対策を実施されているところですが、さらに下記事項について貴職の特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

- 1 市街地上空での低空飛行を避けること
- 2 通常訓練の離着陸コースを遵守すること
- 3 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること
- 4 訓練・演習における土日祝日の飛行を避けること
- 5 自衛隊機等の点検整備など、安全管理を徹底すること

また、自衛隊機事故等の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること

# 要 望 書

「防音対策事業」について、別記理由により  
特段の御高配を賜りますようお願い申し上  
げます。

令和元年10月 日

苫小牧市長 岩倉博文

苫小牧市航空機騒音対策協議会  
会 長 丹羽秀則

# 理 由 書

千歳飛行場周辺整備事業につきましては、日頃から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

厳しい財政事情の中にあつて、逐年飛行場周辺地域の環境整備がなされており、感謝に堪えない次第でございます。

しかしながら、千歳飛行場の南方周辺は航空機の頻繁な離着陸による騒音障害と、在日米軍再編に伴う訓練移転の開始により、騒音がさらに増え、周辺住民の生活安定及び福祉の向上のための諸対策が強く望まれております。

つきましては、下記事項について、貴職の特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

- 1 住宅防音助成については、対象区域を70Wまで拡大するとともに、全室を対象とし、告示後の新築住宅についても対象とすること



要望事項に関する回答要旨（国土交通省）

要望事項	新千歳空港事務所	東京航空局	航空局
<p>1 着陸時における住宅街での飛行高度を遵守すること並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること また、離陸時の飛行として住宅街を避けるコースを設定すること</p>	<p>・騒音軽減については、最大限可能な限り、措置を講じている。 ・安全確保の観点から、経路を外れて飛行することがあること、また、離着陸の回数が増えているので、やむを得ず市街地上空を飛行することについて、ご理解いただきたい。 ・飛行コースについては、引き続き、航空会社に対して的確な指導をしていきたい。</p>	<p>・要望事項に対する回答については、新千歳空港事務所と同様。</p>	<p>・要望事項に対する回答については、新千歳空港事務所と同様。</p>
<p>2 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること 特に、深夜の静穏保持の観点から、遅延便等の一層の抑制に向け、航空会社への指導強化を行うこと</p>	<p>・運航自粛時間における飛行の抑制については、航空会社が機材繰りやその時間変更について、順次取り組みをしていると聞いている。 ・航空会社に対しては、継続的にしつかり取り組みするようにより要請していきたい。</p>	<p>・同上</p>	<p>・同上</p>
<p>3 低騒音機種への切替えを促進すること</p>	<p>・低騒音機種への切替えについては、機材の発生源対策が重要な手段であると認識しているので、今後も航空会社に対して、低騒音機の導入を促していきたいと考えている。</p>	<p>・同上</p>	<p>・同上</p>
<p>4 外国貨物機の騒音軽減について引き続き指導を行うこと</p>	<p>・現在、国内線及び国際線については、貨物専用機の定期便の運航はないが、今後飛行計画が策定されたときは、航空会社に対して指導を遵守してまいりたい。</p>	<p>・同上</p>	<p>・同上</p>
<p>5 航空機等の点検整備など、安全管理を徹底すること また、航空機事故の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること</p>	<p>・航空の安全運航の確保については、最重要課題であると認識している。 ・本省の航空局において、安全監査を通じて、整備点検等の用務の確認を行う等、対策をとっている。 ・安全上のトラブルについては、毎年度航空輸送の安全に関わる情報を整理して公表している。 ・地域の方々安心して生活できる環境を作っていきたい。</p>	<p>・同上</p>	<p>・同上</p>
<p>※ 美沢川の水質問題について</p>	<p>・毎年、空港内の調整池、美沢川、美々川でそれぞれ水質調査を行っている。 ・BODが5以下の基準で美沢川へ池の水を放流すると、美々川のBODが2以下になるという経験に基づき、苫小牧市環境保全課と話し合って今年度も例年どおり、放流を行っている。 ・薬剤の効果的な散布については、できるだけ事前に圧雪を一回</p>	<p>・同上</p>	<p>・同上</p>

要望事項	新千歳空港事務所	東京航空局	航空局
<p>※ 航空従事者の飲酒問題について</p>	<p>とり、その後薬剤を撒いて効果を継続させたいと考えており、今後この方法を継続したいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在使用中の蟻酸系以上に環境に優しく、効果的なものがでてくれば、お知らせしたいと考えている</li> <li>・本省で回答。</li> <li>・本省の方で、しっかり指導・監督をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本省で回答。</li> <li>・本省の方で、しっかり検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲酒事案が発生した航空会社に対して処分を行い、改善策の提出を求めている。</li> <li>・さらなる改善策として、教育体制の拡充に加え、禁酒時間前であっても、過度な飲酒を禁止すること、出勤前のアルコール検査を実施することの2点を検討している。</li> </ul>

## 要望事項に関する回答要旨（防衛省） 騒音軽減・安全対策

要望事項	北海道防衛局	航空自衛隊 第2航空団	渡辺防衛大臣政務官	航空幕僚監部
1 市街地上空での低空飛行を避けること	<p>• 飛行訓練については、自衛隊は平素から機体の定期整備、飛行前後の点検、隊員の安全教育等を行い、安全管理を徹底しているものと承知している。</p> <p>• 騒音等による飛行場周辺への影響を最小限とするよう、深夜早朝並びに土曜日、日曜日及び祝日の飛行は、可能な限り回避するよう配慮しているが、緊急発進や災害派遣等により、飛行する場合がありますことについては、理解をいたしたい。</p> <p>• 要望していただいた内容については、自衛隊にしっかりと伝えるとともに、事故等に係る情報については、自衛隊と連携し苫小牧市を含む関係自治体に、速やかに情報提供できるように努めたい。</p>	<p>• 飛行訓練については、航空法等に基づき、それを遵守し実施している。</p> <p>• 他基地から飛行訓練等で来たパイロットに対しても、千歳基地特有の制約事項等のブリーフィングなど、教育指導を実施している。</p> <p>• 今後も飛行安全を念頭におきつつ、市街地上空の低空飛行を回避するよう配慮してまいります。</p>		
2 通常訓練の離着陸コースを遵守すること	<p>• 同上</p>	<p>• 天候等の状況により、安全確保のため、雲を避ける飛行する場合があることも十分理解いただきました。</p> <p>• 可能な限り騒音の軽減に配慮してまいります。</p>		<p>•</p>

要望事項	北海道防衛局	航空自衛隊 第2航空団	渡辺防衛大臣政務官	航空幕僚監部
3 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>深夜早朝の飛行訓練を自粛しているが、緊急発進、災害派遣等の任務や上級部隊が計画する演習については、飛行する場合がありますとを理解いただきたい。</li> </ul>		
4 訓練・演習における土日祝日の飛行を避けること	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土日及び祝日には、通常の飛行訓練は計画していないが、上級部隊が計画する演習、航空祭及び他基地への展示飛行等の支援については、飛行する場合がありますので、理解いただきたい。</li> </ul>		
5 自衛隊機等の点検整備など、安全管理を徹底すること また、自衛隊機事故等の情報や事故原因、再発防止策等について情報提供すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平素より、定期的な整備、飛行前飛行後の点検等を適切に実施するとともに隊員教育を実施して、事故防止に努めているが、これまですと同様、安全確保を強化してまいります。</li> <li>万が一、事故等が発生した場合には、苫小牧市への速やかな情報提供に努めてまいります。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>点検については、常時、例年点検整備等を行っているが、引き続き安全対策を行い、不安を与えないように努めてまいります。</li> </ul>

要望事項に関する回答要旨（防衛省） 防音対策

要望事項	北海道防衛局	渡辺防衛大臣政務官
<p>1 住宅防音助成については、対象区域を70Wまで拡大するとともに、全室を対象とし、告示後の新築住宅についても対象とすること</p>	<p>北海道防衛局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飛行場周辺において、環境基本法に基づき定められた「航空機騒音に係る環境基準について」の趣旨を踏まえ、75W以上の区域において、屋内で60W以下になるよう住宅防音工事の助成の措置をとっている。</li> <li>75W未満の区域の住宅防音工事の取扱いについては、住宅防音事業の今後の在り方に関わる課題であり、全国の住宅防音事業の進捗状況等を踏まえ、今後の検討課題であると考えている。</li> <li>(70W以上の) 全室を対象とすることについては、現在の住宅防音工事の制度では、75W～85Wの区域については、原則、世帯人員＋1居室を対象とし、5居室が限度となっていることをご理解願いたい。</li> <li>なお、特に騒音の著しい85W以上の区域においては、平成14年度から、居住人数に関わらず、住宅の家屋全体を防音工事の対象とする外郭防音工事を実施しているところ。</li> <li>当面は、当該区域における同工事の促進に努めることが先決であると考え、助成対象範囲の拡大については、全国の同工事の進捗状況等を踏まえつつ、今後検討してまいりたい。</li> <li>告示後に建築された住宅の防音工事については、特に地元要望が強いものと承知しており、厳しい財政状況の中、どのような対応が可能か検討している。</li> </ul>	<p>渡辺防衛大臣政務官</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防音対策について全国の基地周辺の防音対策を含めて、もう一度話し合いするよう指示を出した。</li> <li>防音工事の対象がすぐに拡大することにはならないと思うが、少し時間をいただきたい。</li> </ul>

## 要望活動時の主な質問に対する回答要旨

## 《新千歳空港事務所》

## ●遅延便対策について

Q 遅延便対策として、航空会社にどのような指導をしているのか。

A 様々な天候事情において、遅延が発生している状況。

新千歳空港事務所としては、航空会社に対して時間を前倒しする、遅れがでないようにといった指導を機会ごとに行っている。

Q 遅延の原因について教えていただきたい。

A 遅延便の原因については、航空会社又は顧客の事情、天候等の他、日本全体の空の交通量が近年大きく増加傾向にあることが考えられる。

AIRDOの遅延については、北海道の空港からの離発着を頻繁に行っている運航体制において、雪が降った場合、空港での遅延が積み重なるため、最終便に影響を受けやすい航空会社であるためだと思われる。

## ●飛行高度について

Q 最近、飛行機の高さが非常に低く感じるが、規定を設けているのか。

A 滑走路の延長線上に飛行する場合は、3度という規定値があるため、滑走路の降りる地点は決まっている。そのため大きくずれるような運航は滅多にない。

その差が大きく見違える場合は、例外的な運航がされている場合が考えられる。

Q 飛行機が何フィートで着陸していくというデータはあるのか。

A 飛行経路については、新千歳空港は提供していないが、羽田空港や成田空港では提供しているため、滑走路に着陸する航空機等の経路と高さも見る事ができる。

参考

羽田空港

<https://www.franomo.mlit.go.jp/Login.action>

成田空港

<http://airport-community.naa.jp/course/>

## ●昨年の震災後における滑走路や沈砂池の影響について

Q 滑走路や沈砂池には、震災の影響はなかったのか。

A 滑走路、誘導路、空港内の施設、ターミナルビルを除きすべて正常。自然災害の検討委員会の中でも、おそらく液状化までも至っていないと考えられると報告を受けている。

### ●新千歳空港敷地内のシカの侵入について

Q 空港敷地内にシカが侵入したと新聞報道で見た。どうしてこのようなことが起こったのか。

A 10月29日に発生した。朝方の点検時にシカを発見し、敷地外に追い出した。直近だと平成27年3月が最後。

抜本的なシカの侵入対応については、飛行場の既設状況から、規定の部分のフェンスを高くする物理的な対応も考えられるが、現時点ではフェンス等の対応ができないところ。

### ●デアイシングエプロンの利用について

Q デアイシングエプロンの活用について、どうなっているのか確認したい。

A 最近の経過としては、活用は極めて少ない状況。今後、運航密度が高くなった場合に、デアイシングエプロンの利用が有効なこともあるので、航空会社と意見交換をしながら対応を考えていきたい。

## 《国土交通省 航空局》

### ●第2ターミナルビルについて

Q 第2ターミナルビルについて、今後の計画があれば聞きたい。

A 現在は国際線ターミナルを整備し、さらに国際線旅客対応として、他の部分の整備を行っている状況であるため、第2ターミナルビルについては考えていない。

### ●誘導路について

Q 誘導路について確認したい。

A 将来的には、平行誘導路を増設するという話もあるが、来年3月までに完成する南側の誘導路については、既存の空港敷地内の整備である。

### ●民間委託について

Q 馬蹄形の第2ターミナルビルを計画してあったところに、民間委託になったらLCCのターミナルを作る構想があると新聞報道で見たが、国と民間委託先、どちらが行うのか。

A 8月9日に優先交渉権者が作成した提案概要を公表しているが、その中で国内線と国際線の共用ビルの整備が盛り込まれているところ。提案された事項については、運営権者の資金で計画・実施されることとなる。

### ●空港支援機構について

Q 民営化後も、地域整備事業を引き続きやっていただきたい。

A 従来、支援機構が実施していた事業については、駐車場事業に加えて地域共生事業も運営権者に引き継いでもらう。地域共生策については、より拡充させて実施していくご提案を頂いている。航空局ではその実施状況をしっかり監視していく。

●航空従事者の飲酒問題について

Q 再発防止策を含めて、検討されていることについて聞きたい。

A 現在、パイロットの飲酒で問題が生じた場合、その航空会社に対して処分を行うとともに、改善策の提出を求めている。また、さらなる改善策として、教育体制の拡充に加え、禁酒時間前であっても過度な飲酒を禁止すること、出勤前のアルコール検査を実施することの2点について検討している。

《国土交通省 東京航空局》

●デアイシングエプロンについて

Q デアイシングエプロンがあまり上手く活用されていないようだがどうなっているのか。

A 航空会社と話し合い、既存の施設も含めて、引き続きその可能性もしっかり考えたい。

●融雪剤について

Q 国際線エプロンの拡張や誘導路の建設に伴い、融雪剤の使用量は増えるのか。

A 必ずしも施設が大きくなると、融雪剤が増えるというわけではない。一番の原因は天候と考える。

●発着枠拡大について

Q 発着枠拡大に伴い、給油や保安検査等の地上支援についてはどう考えているのか。

A 現場サイドで各空港とワーキングを作り、どう対応していくかまさに検討中。

●3本目の滑走路について

Q 千歳市が、3本目の滑走路を要望したと新聞記事で見たが、どのように捉えているのか。

A 今後、運営権がコンセッション会社に委ねられるので、千歳市の考えも踏まえて話し合っていくと思う。我々はコンセッション会社が事業をしっかり運営するのを管理する立場になる。



## 《防衛省 航空自衛隊 千歳基地》

### ●スクランブルについて

- Q 千歳基地においてスクランブルは相当あるのか。  
A 減っていない。

### ●日豪共同訓練について

- Q 訓練は実施されたが、どうだったか。  
A 豪軍のFA-18が6機、千歳のF-15、三沢のF-2が参加し、ほぼ計画通り実施。訓練の他、スポーツや文化交流を通じて日豪間で距離感を縮めることができ、非常に有意義な訓練であった。

- Q FA-18の騒音について、通常訓練より騒音が大きいと認識しているが、どのように考えているのか。  
A 豪軍に対して、千歳基地のルールや飛行特性、制約等全て教育して訓練しているところ。そのため、飛行経路等については遵守していると認識しているが、F-15と機種が違うため、少し気づいた点があるのかもしれない。

- Q 今後訓練が拡大していく可能性があるのか。またブリーフィングは行ったのか。  
A 事前に各自治体へ北海道防衛局と説明に伺った。今後の訓練の予定については、認識していないため、今後その情報が入り次第、説明する。

### ●F-35の配備について

- Q F-35はいつ配備されるのか。  
A いつ千歳基地にくるのかというところについて、計画が今後が示されていく。

### ●政府専用機の訓練日について

- Q 政府専用機の訓練日は、事前に決めることができないのか。  
A 任務運航が与えられる以外の日程で訓練飛行を行っている。当然定められた航路上を飛行して訓練しているため、ご理解いただきたい。

### ●部品落下について

- Q 戦闘機等の部品落下について、何度も同じようなものが落下しているケースも見られるが、点検方法の改善等を考えているのか。  
A 部品落下については、平素より定期的な整備、或いは飛行前後の点検の強化を適切に実施している。さらに、隊員教育を実施し、事故防止に努めているところ。

### ●飲酒問題について

- Q 自衛隊機のパイロットの飲酒や未然防止策など、取り組んでいることはあるか。  
A パイロットの他、車両操縦者等、携わる隊員の飲酒のチェックを徹底している。

## 《防衛省 北海道防衛局》

### ●住宅防音工事について

Q 告示日から長い年月が経過しているものの、告示後、1年遅いだけで防音工事の対象にならないことについて何とかしていただきたい。

A 現在、特に地元からの要望が強いので、どのような対策ができるのか検討している状況。

### ●日豪共同訓練について

Q 日豪共同訓練は今後行われるのか。

A 情報等入り次第、自治体の皆様に迅速に情報提供をしてまいりたい。

### ●オスプレイについて

Q オスプレイが苫小牧上空を飛行したのは新聞記事で見た。非常に不安を感じる。

A 可能な限り情報提供に努めていきたい。

### ●F-35について

Q F-35が訓練で北海道に来るのであれば、騒音の軽減を図りながら上空を通過して貰ってほしい。

A 情報について仕入れていないため、今後情報を提供していきたい。

### ●航空祭について

Q 航空祭時の渋滞はどうにかならないか。

A 来場者の人数が多いため、ご迷惑をかけている。ご理解をお願いしたい。

### ●沖縄の負担軽減について

Q 国において沖縄の負担軽減の検証を行い、情報提供してほしい。

A 本省等と相談しながら進めてまいりたい。

## 《株式会社 AIR DO》

### ●遅延便について

Q 遅延便の発生原因と対策について聞きたい。

A 遅延便については、エアドウの路線減少により、ボーイング767の運行を増強、継続させたところ、2時間超あった駐機時間が40分程度に短縮してしまったことが大きな理由。

対策としては、駐機時間の確保や新しい機材の導入、保安検査場の通過時間を延長する等、様々な取り組みをして、努力してまいりたい。

### ●深夜便について

Q 深夜便は利用されているのか。

A 利用されている。上期のダイヤでは、全期間の半数以上は深夜便である。

●発着枠の増便について

Q 発着枠の増便に伴い、さらに遅延便が増えるのではないか。

A 定時を守り、増便できる体制を整えばそれに基づいて飛ばしていきたい。ただ、冬の天候の問題で、増便する前に除雪の問題等の環境づくりを新しいチーム会社、北海道エアポートが作っていくと思う。

●デアイシングエプロンについて

Q デアイシングエプロンがあまり利用されていないことについて、意見を聞きたい。

A 今年の冬から利用できないか考えているところ。南に移動する途中に、その防除雪氷するエプロンを使って、もう一度スポットに戻るというリスク軽減をする方法を研究中。この要望を空港の当局にあげていきたいと思っている。

●航空従事者の飲酒問題について

Q 飲酒問題の内容と対策を聞きたい。

A 1件目は、搭乗前と搭乗後の呼気チェックを忘れたこと。2件目は、12時間以内に飲酒したこと。対策としては、呼気チェックを行いアルコールが入っていると搭乗させない、そこまでを徹底している。毎回前後にチェックを行い、飲酒可能な時間も決めて、再発防止に努めている。

●操縦士の人手不足について

Q 操縦士の人手不足により、運休した話を聞きたい。

A 団塊の世代が退いたことで、需給が崩れてしまう背景があったが、経験豊富な方を採用し育成する中で、ペースを掴んで実現ができてきている。

現在は、路線を若干縮小し、無理のない形でしっかりと体制を作っている。飲酒問題と操縦士不足について関連はない。

